

# 日野・生活者ネットワークニュース No.173

2024年10月28日発行 発行/日野・生活者ネットワーク 発行責任者/出沼恵美子  
〒191-0062 日野市多摩平2-3-12 中央日石ビル4F  
URL <http://hino.seikatsusha.me/>



## データセンターによる環境影響を 限りなくゼロにするために

全国各地でデータセンターの建設が進んでおり、市内でも建設計画があります。AI技術や通信網が加速化する中、欠かせない施設と言われてはいますが、膨大な電力使用や排熱等が環境に与える負荷が懸念されます。

昭島市では、国内最大級の巨大データセンターが建設予定です。1年間に使用する電力、それに伴うCO2排出量は、市全体のそれぞれ6倍、4倍との試算があります。

日野市はゼロカーボンシティ宣言をされており、昨年は気候市民会議も開催され、提言書を受けています。しかしデータセンターの電力利用によるCO2排出量によって、2050年カーボンニュートラル達成が困難になってしまいます。それは昭島市、ひいては国全体においても同様です。

東京・生活者ネットワークは、9月30日、国の関係省に対し「データセンターによる環境影響を減らすよう求める要請」を行いました。①データセンターの総量規制を検討すること。②計画段階から各事業所のエネルギー効率の値を公表すること。③エネルギー使用の更なる高効率化と2030年再エネ100%にすること。④データセンター施設は、ZEBの基準を満たすこと。⑤

排熱の抑制や利用などで、地域に温度湿度の影響を出さないようにすること。



白井なおこは、国への要請を関連自治体の議員と共同で行うため、この機会に、自治体の関係者らと協議を行いました。

⑥要望項目の進捗を話し合うための自治体、地域住民との協議の場をつくることを求めました。

担当者は、要請の主旨は理解してくれたものの「規制することは困難」「排熱を蓄熱し、エネルギー変換する設備の支援メニューはあるが、コストもかかるので事業者になかなか導入いただけない」といった消極的な対応でした。

9月議会で、白井なおこはデータセンターについて取り上げ、再エネ100%電力とすることや、建物の壁面緑化等に加え、再エネ事業に取り組むことも提案しました。

またデータセンターに関する請願では、環境審議会からも意見を求めることなど意見し、採択しています。

これからも皆さんとともに学びながら、本気のカーボンニュートラルに向け取り組んでいきます。





## シャボン玉月間 市長面談を行いました

日野ネットも使用を推奨しているせっけん。せっけん運動ネットワークでは「安全性や環境影響に不安のある合成洗剤の使用をやめて、せっけんを使いましょう」と、せっけんの使用を広く地域へ呼びかけています。

その一環として、毎年7月のシャボン玉月間にあわせて、全国の自治体から石けんに関するメッセージを集めています。今年も多摩南生活クラブまち日野のメンバーとともに、大坪市長と面談を行いました。直接メッセージ依頼書を手渡し、日野市内の公共施設等でのせっけんの使用を訴えました。

地球環境のためにも、自分と家族の健康のためにも、皆さんもぜひ、せっけんのある生活を！



※天然の油脂とアルカリが原料のせっけんは、排出されると洗浄力も毒性もなくなるので、環境に悪影響を与えません。「せっけん」と表示できるのは、界面活性剤が脂肪酸ナトリウムまたは脂肪酸カリウムの2つだけです。

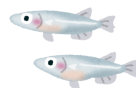


日野ネットもメンバー

### 日野地域協議会主催 夏のイベント



7月に毎年恒例、浅川での水辺の生き物調査を行いました。子どもも大人も夢中になって、ガサガサ。ヒガシシマドジョウ、ヨシノボリ、アブラハヤなど、たくさんの生き物に出会えました。



8月にはみんなの居場所を開催し、日野市内で伐採した竹を使って、流しそうめんを行いました。賑やかで楽しい時間となりました。



## 2024年10月から新薬（先発医薬品）の負担が増えることを知っていますか？



国民皆保険を将来にわたり守っていくため、国はジェネリック医薬品（後発医薬品）を積極的に処方するよう進めています。そこで、10月より新薬（先発医薬品）を処方した場合は、ジェネリック医薬品との差額1/4相当の負担を支払うことになりました。

有効成分は新薬と変わりませんが、コーティングする添加剤が異なる場合もあり、副作用として薬疹（アレルギー反応）や効果の違いがまれに見られるそうです。

医療上の必要性がある場合等は、特別料金は支払う必要がないので、きちんと薬に対する情報を得て、処方に関しては医師との相談で決めましょう。



厚生労働省の紹介チラシ